

株主 通信

第88期 第2四半期のご報告

2011年4月1日～2011年9月30日

日本電産サンキョー株式会社

日本電産(Nidec)グループ
Sankyo
—All for dreams

CONTENTS

- 1 株主の皆様へ
2011年度第2四半期決算
四半期別の業績推移
- 2 事業紹介
- 5 セグメント別業績
- 6 2011年度通期の
連結業績見通し
2011年度業績予想
表紙写真について
- 7 連結財務諸表
- 9 株式の状況
東証における株価・
株式売買高・
時価総額の推移
- 10 財務ハイライト(連結)
会社概要

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、第88期第2四半期（2011年4月1日から2011年9月30日まで）の業績をとりまとめましたのでここにその概要をご報告申し上げます。

2011年12月



代表取締役社長

安川 員仁

全般的な営業の概要

2011年度第2四半期の売上高は、急激な円高の進行や海外経済の減速、一部東日本大震災の影響もあり454億23百万円（前年同期比27億58百万円減収）となりました。

営業利益については、減収による影響に加え、材料価格や海外生産コストの急激な上昇などにより44億76百万円（前年同期比20億64百万円減益）となりました。

経常利益については、36億31百万円（前年同期比16億14百万円減益）となり、為替による差損は11億70百万円でした。

第2四半期連結累計期間純利益については、27億13百万円（前年同期比12億67百万円減益）となりました。

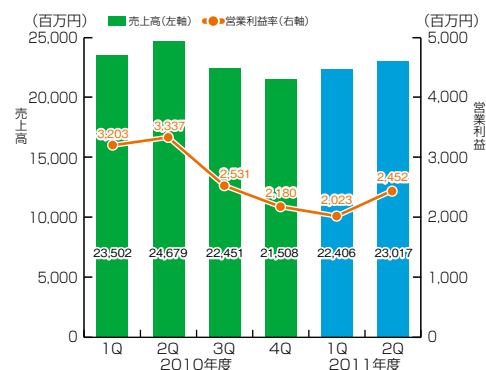
なお、2011年度第2四半期末の剰余金の配当は、予定通り1株当たり5円の配当を実施させていただきます。株主の皆様には、業績に応じた利益還元を行い、株主価値の増大に向け努力してまいります。

2011年度第2四半期決算

(単位:百万円)

連結	2010年度 上半期	2011年度 上半期	増減率
売上高	48,182	45,423	-5.7%
営業利益 (営業利益率)	6,540 (13.6%)	4,476 (9.9%)	-31.6%
経常利益	5,246	3,631	-30.8%
純利益	3,981	2,713	-31.8%
1株当たり利益	20.84	14.21	-31.8%

四半期別の業績推移



事業紹介

部品関連事業

業績について

部品関連事業の売上高については、急激な円高の進行による為替の影響や販売価格の下落などにより216億25百万円（前年同期比13億31百万円減収）となりました。営業利益については、減収による影響に加え急激な材料価格の高騰や海外生産コストの上昇、新製品の開発コストが先行したことなどにより11億69百万円（前年同期比11億21百万円減益）となりました。

しかしながら、シェア拡大戦略における新興国市場（ポリウムゾーン）への積極参入を行ってきたことや、手ブレ補正ユニットなどの新製品を市場投入してきたことによる効果も現れ始め販売数量は着実に増加しております。

ステッピングモータについては、PC市場におけるODDの堅調な動きやカメラ市場におけるミラーレス一眼レフカメラなど新規シェアの獲得、新興国市場への拡販を強力に努めた結果、販売数量は前年同期比で11.7%増加しております。今後も当社の得意分野である小型小径分野市場において、成長市場と見込まれている新興国市場などに技術力の優位性を活かし積極的に新製品を投入することでシェア拡大を図り増収に結びつけてまいります。

モータ駆動ユニットについては、国内家電市場における震災後の電力供給不足を受け省エネ家電などのテーマ性のある製品群が伸張し、加えてアジアを中心とした新興国での家電市場は単機能・低価格といった製品群が活況に推移しております。従来からの当社搭載実績を背景に特に新興国市場への積極的な拡販に取り組んだ結果、販売数量は前年同期比で18.5%増加しております。今後も拡大傾向にある新興国市場へ当社保有技術を基盤とし積極的に新興国特有のニーズに合わせた新製品を投入しシェア拡大に努め増収に結びつけてまいります。

モータ

IT関連製品、AV・デジタル製品、家電製品などのキーパーツとして、当社のモータは現代生活のあらゆるシーンで活躍しています。小型、高精度、高速、静穏、そして低コストとますます高度化し、多様化する時代のニーズを常に最高水準でクリアできる製品を開発しています。

世界トップシェアを誇るステッピングモータは、パソコン、ブルーレイレコーダ、ゲーム、デジタルカメラ、携帯電話などのデジタル機器製品へ幅広く採用されています。

また、新市場に向けて、ステッピングモータの基本機能である位置制御、定常送り、応答性を更に掘り下げた開発を行い、自動車機器、家電・住設機器、医療機器及びプリンタ/プロジェクタからモバイル機器などへの新たな展開を図っております。

サーボモータは、約3m四方の液晶ガラス基板を安定して搬送する産業用ロボットに搭載されており、その性能、信頼性は、当社産業用ロボットにて実証されています。今後、さまざまな用途に対応できるようにサイズバリエーションも取り揃え、多くの場面で活躍することが期待されます。また、販売開始から30年をむかえる当社ロボットの心臓部としての実績を有するサーボモータの技術に民生用大量生産の技術を加え、低価格化を実現しました。新興国向けのサーボモータとして、今後多くの場面で活躍することが期待されます。



モータ駆動ユニット

当社のコア技術である小型・高効率モータに、独自のメカニカル技術とセンサ技術を融合させたモータ駆動ユニットは、世界中の家電製品、住宅設備機器のさまざまな用途で活躍しています。お客様の多様なニーズに合わせて、豊富なモータラインアップにより電源・制御系を自由に選択できるとともに、高信頼性部品の活用とシンプルなメカ構造により、長寿命で最適価格の製品群を提供しています。

グローバル規模で展開する多様なマーケットニーズに対しては、戦略的な販売促進を行っており、近年急速に拡大しているアジアを中心としたポリウムゾーン向けには、これまで培ってきたVE設計技術及び生産技術によって、よりコスト競争力のある高信頼性製品の販売促進を積極的に進め、売上の拡大を目指しております。一方、欧米市場向けには、省エネニーズを受けて、DC化製品への本格採用に向けた取組を進めております。



トピックス I

カラクリ・トロニクス新製品 デジタルサイネージ向けガルバノユニット

最近、新しい広告媒体として、デジタルサイネージが注目されています。デジタルサイネージは、ディスプレイに映像や情報を表示する、いわば電子看板で、公共施設や店舗などに設置されています。

当社は、今年度よりこのデジタルサイネージ向けのガルバノユニットを市場投入しました。ガルバノユニットは、ブルーレーザーをユニットに取り付けられた反射ミラーに反射させることで角度位置を調整し、テレビ映像と同じ「インターレース」技術にて、動画面をスムーズにディスプレイに映写することを実現する重要な部品です。

このガルバノユニットは新しい分野への展開となりますが、製品開発の基礎となる技術は、当社がこれまでに培ってきたモータ×カラクリ技術である「カラクリ・トロニクス」の応用であります。小型高効率モータによる省エネ、高精度の動作性と最適メカ設計、高制御技術による高速応答により、高いパフォーマンス性能を持ったユニットの提供を実現しています。今後も、市場のトレンドを掴んだ製品開発を行い、「カラクリ・トロニクス」の可能性に挑戦し続けます。



ガルバノユニット

機器装置関連事業

業績について

機器装置関連事業の売上高については、162億86百万円（前年同期比9億30百万円減収）となりました。

産業用ロボットについては、大型液晶市場が一時的に供給過剰となり軟調な動きとなったことや、前年同期間に中国市場を始めとする各国での新規設備投資が一時的に集中したことにより前年同期比で減収となりました。しかしながら、スマートフォン・タブレットPC用の中小型液晶市場は好調に推移していることや、加えて世界的トレンドである省エネをテーマとする新分野用途でのロボットを開発し新市場への参入を果たすなどスリー新活動の効果も現れ始めており、今後も過去の実績を背景にシェアNO.1メーカーであることに拘りスピード感ある対応で増収に結びつけてまいります。

カードリーダーについては、円高の影響や欧州の債務問題による金融市場の投資抑制ムードは顕著であり前年同期比で減収とはなりましたが、中国・インド・東欧などの新興国市場は着実に成長を続けており当社販売実績を背景にスリー新活動を強力に推進したことにより着実に販売数量は増加しております。また、直前四半期との比較においても増収増益と改善しており、今度もさらなるシェア拡大を図るとともに高収益体質への転換を図り増収増益に結びつけてまいります。営業利益については、減収の影響や為替の影響により29億90百万円（前年同期比7億83百万円減益）となりました。

カードリーダー

当社は約40年間にわたり、高信頼性、セキュリティ性に重点をおいたATM用カードリーダーの開発を行ってきました。磁気ヘッド、モータなどのコアパーツの内製化や長年にわたり蓄積された豊富なカード関連ノウハウ、また世界の有力なお客様とのパートナーシップによる市場に密着した技術のノウハウの蓄積といった優位性を活かした製品開発を行っています。さらにATM市場で培ってきた高い信頼性と媒体搬送技術、画像処理技術、セキュリティ技術などの先端技術を流通、交通などの新しい分野に展開し、最先端の多様なニーズに対応した製品を開発しています。また、カード化が進む新興国市場向けには、カードリーダーのトップメーカーとして市場ノウハウを活かした製品の展開を行い、新たな市場への進出を図っています。

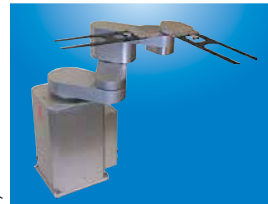


産業用ロボット

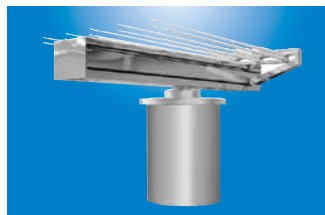
当社の産業用ロボットは、決まった位置に正確な移動を行う高い制御能力を持ったサーボ技術と最適な基板搬送を可能とする機械設定により正確で、安定したガラス基板の搬送を実現しています。さらに高剛性、高信頼性、省エネルギーといった多くのメリットが広く認められ、第6世代以上の液晶ガラス基板搬送用ロボットで世界No.1のシェアを確立しています。

また、高速、高精度を要求される半導体ウェハー搬送用ロボット、半導体や有機ELといった少しの汚れも許されない真空環境下で作業を行えるロボットなど、大気用の液晶ガラス基板搬送用ロボット以外の分野でも製品開発を強化し、新たな市場への展開を図っております。

2011年3月には、米国で、真空環境下のロボットに関するノウハウを保有するPERSIMMON TECHNOLOGY CORPORATIONと提携し、新分野での拡販強化に取り組んでいます。



半導体ウェハー搬送用ロボット



真空ロボット

トピックスII

産業用ロボットの新しい展開 バッテリー交換用ロボット

現在、自動車の新しい展開として、電気自動車が拡がりを見せています。成長著しい中国においても、電気自動車の普及に向けた取組が行われています。

中国の送電王手、中国国家電網は、中国各地に電気自動車（EV）用のEVスタンドの新設を進めています。EVスタンドは、電気自動車のバッテリーを交換するための施設で、充電の切れたバッテリーを自動車から取り出し、フル充電のものと交換する仕組みとなっています。このEVスタンドに当社の産業用ロボットが採用されています。液晶ガラス基板の搬送で培ってきた正確な位置制御とスピーディーな動作が自動車のバッテリー交換の場面でも活躍しています。

中国のEVスタンドは、今後、中国国内に3,000箇所程度設置されることが計画されており、当社もそれに併せて、受注獲得に積極的に取り組んでまいります。



バッテリー交換用ロボット

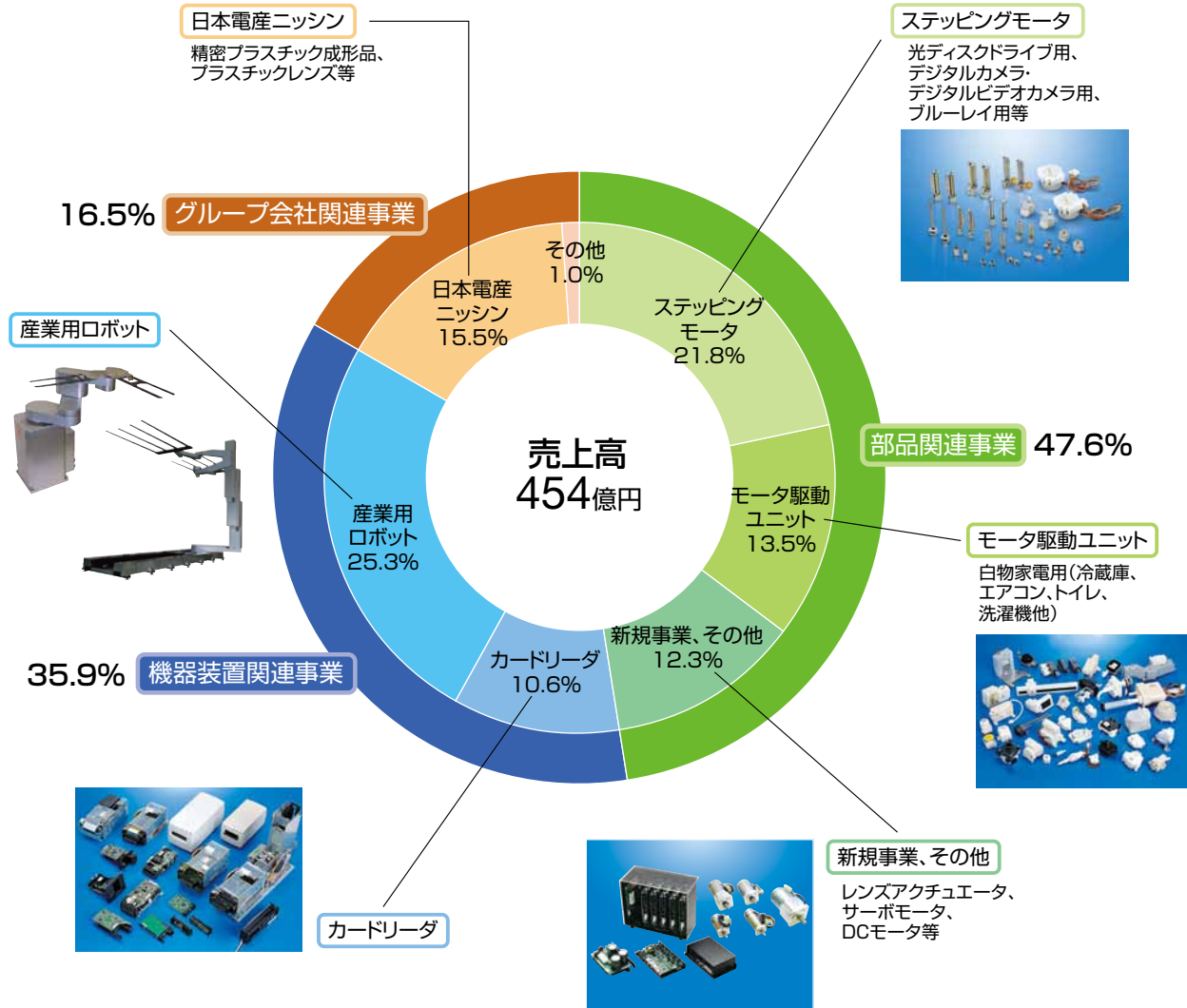
グループ会社関連事業

グループ会社関連事業の売上高については、円高の影響などにより75億11百万円（前年同期比4億96百万円減収）となりました。今後も成形関連部品のスリー新活動の積極展開により新規市場への積極的拡販に努め増収に結びつけてまいります。

営業利益は前年同期比2億2百万円減益の5億95百万円となりました。

セグメント別売上高構成

2011年度第2四半期の事業、セグメント別の売上高構成は以下のとおりです。



2011年度通期の連結業績見通し

2011年度の成長戦略として、今後成長の見込まれているモバイル市場や、新興国の海外家電市場、生産の省人化や高度化に伴い成長の見込まれている産業機械市場への製品を強化するとともに、新興国でのボリュームゾーンの製品のラインアップを充実させシェア拡大に全力で取り組んでまいります。新製品戦略として、新興国を含めたグローバル市場で多様化したニーズに、当社の強みであるオルゴールをルーツとしたメカのカラクリ技術、モータ技術・センサ技術・制御技術をコアに様々な「快適」「便利」を実現する「動くもの」をインテリジェントメカとアクチュエータを複合させた「カラクリ・トロンクス」製品の開発に注力してまいります。

また、コスト競争力の向上を強力に推し進め、価格競争に打ち勝つために国内のみならず海外生産拠点においてもローコストオートメーション化の強化に取り組んでまいります。加えて、開発機能・生産支援機能のローカル化を加速するとともに国内固定構造のスリム化を図り固定構造改革を推し進め、更なる「成長」を目指し全社総力を挙げて増収増益に取り組んでまいります。

各製品における取り組み考え方につきましては次のとおりです。

ステッピングモータについては、トップシェアメーカーとしての実力を基盤とした精密加工技術を活かし高効率小型および静音化製品をタイムリーに提案し、今後も成長市場として見込まれている新興国市場への積極的拡販によるシェア拡大、ブルーレイディスクレコーダ市場でのシェア拡大、住宅設備向けにおける新用途への搭載強化などに総力を挙げて取り組んでまいります。

モータ駆動ユニットについては、省エネ技術で世界最先端といわれている日系家電メーカーのニーズに対応してきた技

術を基盤とし、独自のモータ技術とセンサ・サーボ技術を融合発展させた提案型営業を積極的に展開することで家電・住設市場向けモータユニットなどのさまざまな用途に展開してまいります。また、アジアを始めとする新興国市場における単機能・低価格品といった市場ニーズに対応できるV E機種種の開発に注力するとともに、新たに需要が現れ始めている付加機能製品市場において顧客特有のニーズを取り込んだ新製品をいち早く提案しシェア伸張に総力を挙げてまいります。

カードリーダーについては、これまで世界主要国の金融市場で培ったノウハウを活かし中国を始めとする新興国市場への参入活動に総力を挙げるとともにインド、ブラジル、ロシアなどの次の新興国市場を探索しさらなる増収に結びつけてまいります。加えて、関連機器の開発・拡販を展開継続し、これまで培ってまいりました保有技術を基盤に、カードリーダーに次ぐ新製品開発に注力し他社との差別化を図ることで新規参入市場の拡大に努めてまいります。

産業用ロボットについては、有機ELディスプレイの大型化や、スマートフォン、タブレットPCなどタッチパネル市場の需要は依然堅調な推移を見せており、液晶用ロボット、有機ELディスプレイ用真空ロボットを軸に積極的に拡販を進めシェア拡大に努めてまいります。また、世界的トレンドである省エネをテーマとする中国式EV用スタンドでのバッテリー交換用ロボットなど新分野・用途への参入を積極的に図るとともに、当社が近年重点的に取り組んでおります半導体製造装置市場においても米国真空ロボットベンチャー企業と提携し、半導体用真空ロボット市場に本格参入してまいります。今後もラインアップを充実させ、様々な搬送ニーズに高品位でお応えし、さらなる事業拡大を図ってまいります。

2011年度業績予想

(単位:百万円)

	上期	通期見込み
売上高	45,423	92,500
営業利益 (営業利益率)	4,476 (9.9%)	10,000 (10.8%)
経常利益	3,631	9,500
純利益	2,713	6,700
一株利益(円)	14.21	35.07
配当金(円)	5	10
対米ドル為替レート	80	75

表紙写真について



カード発行機・イメージスキャナ

シェアNo.1のATMで培ってきた高信頼性と先端技術で、流通や交通などの新しい分野に進出しています。銀行の即時発行機や鉄道の発券機で使用されているカード発行機、パスポート、免許証、小切手等、個人認証や電子決済等の場面で使用されるイメージ機器、またカードリーダーのセキュリティ性向上を目的とした様々な新技術の開発で、ATM以外の市場での拡販を目指します。

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2011年9月30日)	前期 (2011年3月31日)
■資産の部		
流動資産	76,275	76,531
現金及び預金	11,341	10,839
受取手形及び売掛金	26,092	23,830
商品及び製品	5,882	5,860
仕掛品	3,145	2,895
原材料及び貯蔵品	4,337	3,685
繰延税金資産	1,309	1,549
預け金	22,646	26,608
未収入金	660	841
その他	874	442
貸倒引当金	△15	△21
固定資産	29,203	28,119
有形固定資産	25,877	24,907
建物及び構築物(純額)	6,332	6,594
機械装置及び運搬具(純額)	7,705	7,348
土地	7,266	7,299
リース資産(純額)	382	526
建設仮勘定	2,363	1,692
その他(純額)	1,826	1,445
無形固定資産	375	424
リース資産	11	20
その他	364	404
投資その他の資産	2,950	2,786
投資有価証券	1,818	1,950
長期貸付金	17	28
繰延税金資産	646	294
その他	469	514
貸倒引当金	△1	△0
資産合計	105,478	104,650

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2011年9月30日)	前期 (2011年3月31日)
■負債の部		
流動負債	21,623	20,784
支払手形及び買掛金	14,427	13,608
短期借入金	1	2
リース債務	176	257
未払金及び未払費用	4,206	3,556
未払法人税等	764	1,306
繰延税金負債	9	6
賞与引当金	1,219	1,111
設備関係支払手形	353	446
その他	462	488
固定負債	1,330	1,784
長期借入金	17	28
リース債務	60	112
長期未払金	603	782
繰延税金負債	98	83
退職給付引当金	229	317
資産除去債務	8	8
負ののれん	305	443
その他	6	8
負債合計	22,953	22,569
■純資産の部		
株主資本	87,469	85,713
資本金	35,270	35,270
利益剰余金	52,234	50,475
自己株式	△34	△31
その他の包括利益累計額	△5,151	△3,822
その他有価証券評価差額金	54	255
為替換算調整勘定	△5,206	△4,078
少数株主持分	206	190
純資産合計	82,525	82,081
負債純資産合計	105,478	104,650

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2011年4月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期 (2010年4月1日から 2010年9月30日まで)
売上高	45,423	48,182
売上原価	35,946	36,598
売上総利益	9,476	11,584
販売費及び一般管理費	5,000	5,043
営業利益	4,476	6,540
営業外収益	377	379
受取利息	47	52
受取配当金	15	9
負ののれん償却額	138	138
助成金収入	-	10
雑収入	176	168
営業外費用	1,222	1,674
支払利息	7	8
為替差損	1,170	1,612
休業補償労務費	12	10
雑損失	31	43
経常利益	3,631	5,246
特別利益	55	86
固定資産売却益	6	71
投資有価証券売却益	48	5
貸倒引当金戻入額	-	9
特別損失	97	132
固定資産除却損	9	101
固定資産売却損	0	0
減損損失	37	28
子会社清算損	50	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	3
税金等調整前四半期純利益	3,589	5,200
法人税、住民税及び事業税	807	1,097
法人税等調整額	35	96
法人税等合計	842	1,194
少数株主損益調整前四半期純利益	2,746	4,005
少数株主利益	32	23
四半期純利益	2,713	3,981

四半期連結包括利益計算書

(単位:百万円)

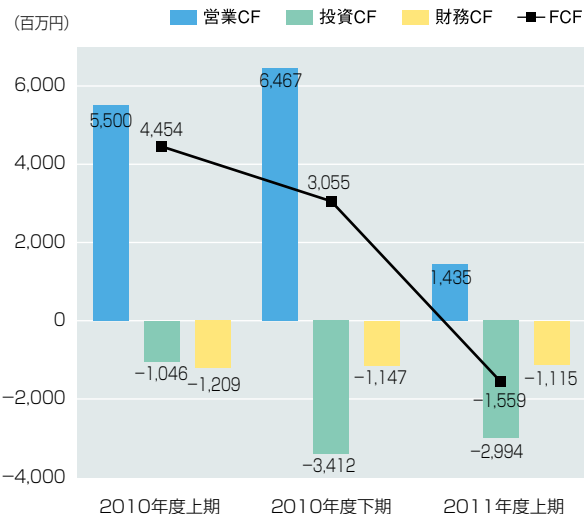
科目	当第2四半期 (2011年4月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期 (2010年4月1日から 2010年9月30日まで)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,746	4,005
その他の包括利益	△1,344	△1,445
その他有価証券評価差額金	△200	△162
為替換算調整勘定	△1,144	△1,282
四半期包括利益	1,401	2,560
親会社株主に係る四半期包括利益	1,384	2,549
少数株主に係る四半期包括利益	16	10

四半期連結キャッシュ・フロー計算書要旨

(単位:百万円)

科目	当第2四半期 (2011年4月1日から 2011年9月30日まで)	前第2四半期 (2010年4月1日から 2010年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,435	5,500
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,994	△1,046
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,115	△1,209
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△814	△921
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,489	2,321
現金及び現金同等物の期首残高	37,421	33,358
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	30	-
現金及び現金同等物の 四半期末残高	33,963	35,680

連結キャッシュ・フローの推移



株式の状況 (2011年9月30日現在)

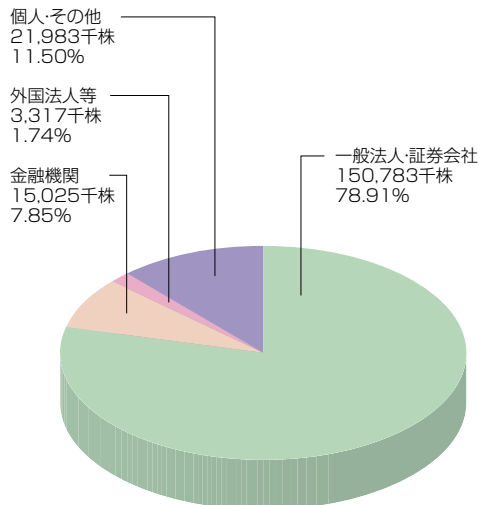
発行済株式総数 191,107,628株
 資本金 35,270,101,264円
 株主総数 8,266名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1 日本電産株式会社	142,161	74.39
2 株式会社八十二銀行	4,212	2.20
3 みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 キヤノン口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	3,710	1.94
4 永守重信	2,252	1.18
5 日本電産コパル株式会社	2,000	1.05
6 日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,814	0.95
7 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,082	0.57
8 日本電産トーンク株式会社	1,000	0.52
9 長野計器株式会社	940	0.49
10 山田六一	850	0.44

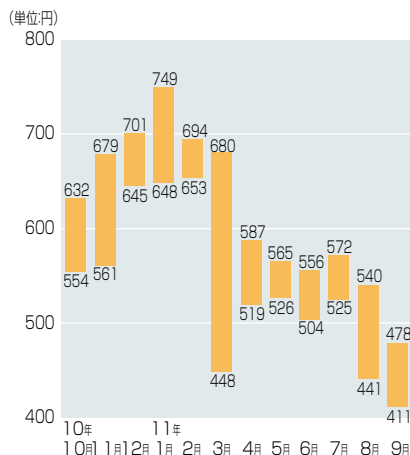
(注)日本電産株式会社を除く、日本電産グループ各社の持株比率の合計は、2.09%(4百万株)となっております。

株式の所有者別比率

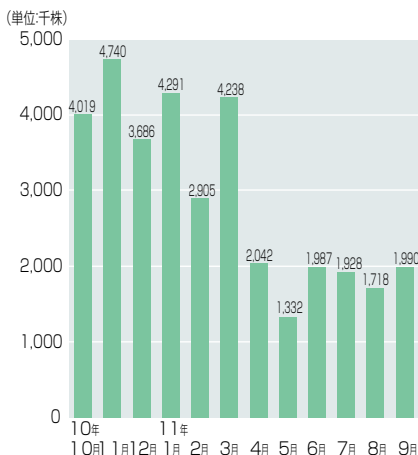


東証における株価・株式売買高・時価総額の推移

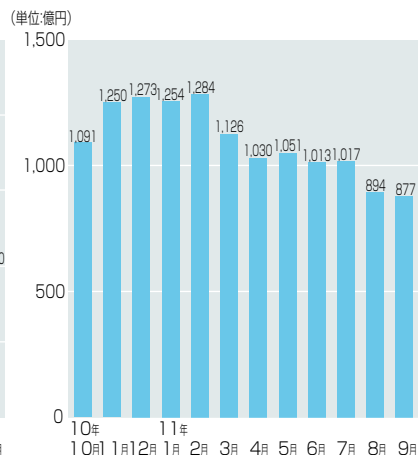
当社株価



当社株式売買高

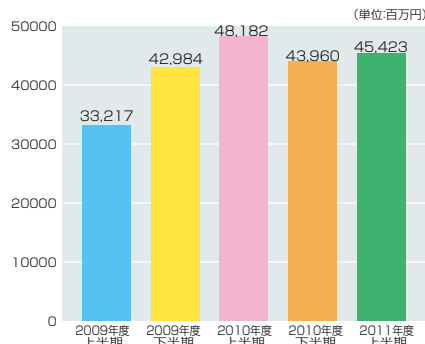


時価総額(月末)

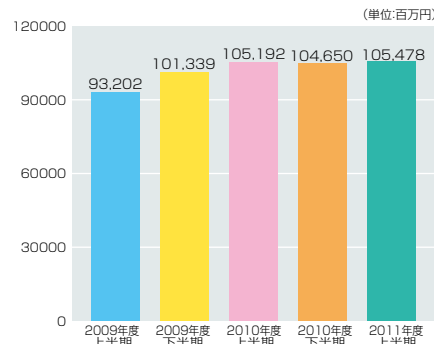


財務ハイライト(連結)

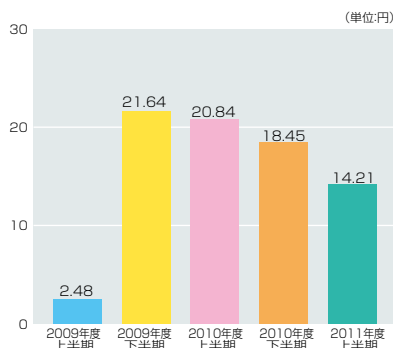
売上高



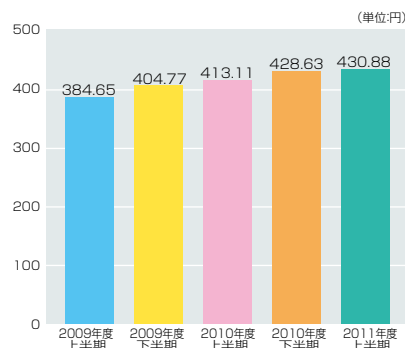
総資産



1株当たり当期純利益



1株当たり純資産



会社概要 (2011年9月30日現在)

商号	日本電産サンキョー株式会社 (英文名 NIDEC SANKYO CORPORATION)
創立	1946年6月18日
事業内容	1.部品関連事業(ステッピングモータ、モータ駆動ユニット、レンズアクチュエータ等) 2.機器装置関連事業(産業用ロボット、カードリーダー) 3.グループ会社関連事業(精密プラスチック成形品、オルゴール等)
本社	〒393-8511 長野県諏訪郡下諏訪町5329番地
国内拠点	(生産・開発)下諏訪、伊那、駒ヶ根 (営業)東京、大阪、名古屋
海外拠点	アメリカ、ドイツ、シンガポール、中国、台湾、韓国、インドネシア、ベトナム、ブラジル、タイ
従業員数	1,389名(連結16,437名)
URL	http://www.nidec-sankyo.co.jp/

役員 (2011年10月1日現在)

取締役会長	永守重信
代表取締役社長	安川員仁
取締役常務執行役員	今井栄治
取締役常務執行役員	秋葉和臣
取締役常務執行役員	大平貴臣
取締役執行役員	青木茂
取締役	井上哲夫
常勤監査役	藤井修平
常勤監査役	上原敏典
監査役	朝比奈秀夫
監査役	今村英明
監査役	成宮治
常務執行役員	平沢一人
執行役員	和田隆平
執行役員	平沢賢司
執行役員	宇野泰之
執行役員	石曾根英高
執行役員	宮沢幸守

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	毎年6月開催		
基準日	・ 定時株主総会で議決権を行使できる株主を確定する基準日	毎年3月31日	
	・ 期末配当金を受領できる株主を確定する基準日	毎年3月31日	
	・ 中間配当金を受領できる株主を確定する基準日	毎年9月30日	
	その他必要あるときは、あらかじめ公告します。		

【株式に関する住所変更、単元未満株式の買取等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更、単元未満株式の買取等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.nidec-sankyo.co.jp/index.htm>
ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。

単元株式数 1,000株
上場証券取引所 東京証券取引所
証券コード 7757